

日本スポーツ心理学会認定 スポーツメンタルトレーニング指導士 ニュースレター

Certified Mental Training Consultant in Sport

第12号

2015年3月



- 巻頭言 P. 1
- 競技団体への心理サポートを通して P. 2
- SMT指導士に求められる倫理とは P. 3
- SMT指導士バッジリニューアルのお知らせ P. 5
- 資格取得者の抱負
 - ・スポーツメンタルトレーニング指導士としての哲学の確立を目指して P. 6
 - ・学生 SMT チームの経験を活かして P. 7
- 事務局からのお知らせ P. 8
- 平成25年度会計報告 P. 11
- 編集後記 P. 12

巻頭言

新しい時代にふさわしいメンタルトレーニングを求めて

土 屋 裕 睦 (資格認定委員会 委員長)

東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、日本のスポーツ界はいよいよ新しい時代に踏み込もうとしています。そんな中、今年度より日本スポーツ心理学会資格認定委員会の委員長を拝命しました。ともに委員会活動を行う皆さんは以下の方々です。いくつかの課題に挑戦しながら、フレッシュな気持ちで取り組んで行きたいと思います。

平成 26 - 28 年度 資格認定委員会委員(敬称略、○印はスポーツ心理学会理事を示す)

委員長(事務局兼務) ○土屋裕睦(大阪体育大学)
副委員長(講習担当兼務) ○荒井 弘和(法政大学)
研修会担当: ○坂入洋右(筑波大学)・武田大輔(流通経済大学)・田中ウルヴェ京((株)ポリゴン)

講習会担当: ○荒井弘和(法政大学)・水落文夫(日本大学)

広報担当: ○菅生貴之(大阪体育大学)・蓑内豊(北星学園大学)・東山明子(畿央大学)

倫理担当: ○内田若希(九州大学)・兄井 彰(福岡教育大学)

会計監査: ○荒木香織(兵庫県立大学)・手塚洋介(大阪体育大学)

学会から: ○中込 四郎(筑波大学)・○鈴木 壯(岐阜大学)

まず挑戦したいことは、スポーツメンタルトレーニング指導士資格の社会的な認知レベルの向上です。競技現場において、「スポーツにメンタルは不



可欠」との認識は広まってきていますが、その担当者と言えば、「スポーツメンタルトレーニング指導士」と呼ばれるようになりたいと思います。

平成23年8月に施行されたスポーツ基本法には、「国際競技大会における日本人選手の活躍は、国民に誇りと喜び、夢と感動を与え、国民のスポーツへの関心を高める。これらを通じて、我が国社会に活力を生み出し、国民経済の発展に広く寄与する」と謳われています。東京2020までに、リオ(2016)、平昌(2018)、ラグビーW杯(2019)と続きます。その後は関西ワールドマスターズゲームズ(2021)もあります。メンタルトレーニング指導を通じて、この理念の実現に貢献することは、私たちの重要な任務と考えます。

社会的認知を高めるためには、私たち自身の実力アップにも努めなければなりません。そのためには、研修会を一層充実させ、現場に役立つ人材としてその活動の場を広げていくことが重要と思われまます。現在、日本には私たち以外にも、たくさんのメンタルトレーニング担当者が活動しています。すばらしい実践を行っている指導者がいる一方で、中には十分な知識もなく、また必要な研修も受けないまま選手やチームに関わり、その結果チームの中でうまく機能しないばかりか、逆に迷惑になっている事例すら散見されます。このような事例を見るにつけ、メンタルトレーニングの

担当者は、競技現場から人材どころか「人罪」と揶揄されることもあるのではないかと心配しています。私たち「スポーツメンタルトレーニング指導士」は、チームにとって「人財」だと呼ばれるようになりたいと思います。

では、私たち「スポーツメンタルトレーニング指導士」のプロフェッショナル・アイデンティティは何でしょうか。私は、科学的知識を持った実践家(Scientist practitioner)だと考えます。大学院でスポーツ心理学を修めたスポーツ科学者であると同時に、現場に役立つための特別なトレーニングを受けた実践家であることが私たちの強みです。改訂増補を重ねた「スポーツメンタルトレーニング教本」を、最近のスポーツ心理学会の研究成果を盛り込みながら、一新することも本委員会の楽しみな挑戦の1つです。同時にスーパービジョンや事例検討会を充実させることにも挑戦していきたいと思っています。

日本は、夏冬をあわせると、実に4回目のオリンピック・パラリンピックのホスト国になります。成熟したスポーツ文化を持つ日本にふさわしいメンタルトレーニングとはどのようなものであるべきでしょうか。その答えを求めて、皆さんと一緒に挑戦していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

競技団体への心理サポートを通して

平木 貴子 (日本大学経済学部)

2020年に東京でオリンピックが開催される。オリンピックに向けた強化対策が、各競技団体でなされている。私が現在関わらせていただいている競技団体でも、リオデジャネイロ・オリンピック、さらには2020年東京オリンピックに向けて、医科学からの支援を強化する方向で動いている。その一環として、2013年より心理サポートも導入する運びとなり、私ともう1名の心理専門家が医科学部会の委員として参入することとなった。医科学委員会に心理専門家が入り、継続的なサポートを行うことは初めてのことで、心理サポート形態や

内容など、要望や活動実態、選手に則したものを提供できるよう、心理専門家間で相談を繰り返しながら、手さぐりで進めてきた。競技団体の方々も我々の要望には柔軟に応じてくれており、意見交換を繰り返しながら、(未だ迷いながらではあるが)自分たちが求められていることや立ち位置なども見えはじめ、我々が大事にしていることも伝わりはじめていると感じている。

医科学委員としての取り組みの第一歩としては、これまでの強化活動の中で、国内の競技力の高い若手選手を集めて結成されたAチームに対して年



に数回の強化合宿が組まれていたため、その枠組みの中で可能なサポート内容を検討した。2013年は都内で行われる強化合宿の際に講習会を中心としたサポートを実施した。加えて、Aチームは半年に一度メンバーの見直しがあるので、選手の見直し後には選手全員に要望のヒアリングや関係づくりを目的とした個別面談を行った。上記の機会以外でも相談を希望する選手に対しては別途時間を設けるようにした。国内で開催された主要試合や事前合宿を視察し、さらなるサポートの可能性についても模索したが、関係が築けていない中、(当然のことであるが)十分なサポートはできず、情報収集・提供に留まった1年であったように思う。強化合宿の回数も限られ、半年に一度の見直しの際には半数以上の選手が入れ替わるため、サポートの継続性を確保しながら、いかに選手との関係を築いていくかが検討課題として残った。

この競技団体に関わるようになって3度目の春を迎えようとしている。最初は様子を伺うような、試されているような視線を向けられていたが、講習会や個別面談を重ねていくうちに、継続してお会いできる選手も増え、自発的にセッションを希望される選手もちらほら出始めている。サポートスタッフとも情報交換や意見交換の機会が増え、他のスタッフも我々をうまく利用してくれるようになってきたと思う。選手との現実的な関わりが

強い方々に対する後方支援も我々の重要な仕事の一つだと実感している。この2年間の変化は現場に足を運ぶ機会を増やし、関係づくりをしてきたということも関係していると思うが、もう1名の心理専門家と検討を重ね、選手やスタッフの方々にご自身や現場のことを教えていただきながら、心理専門家として競技団体の中でどのように存在していくのかを確認できてきたことも少なからず影響しているのではないと思う。未だ揺れ動くことが多いが、このように選手やスタッフと相互交流をしていく中で、それぞれの役割ややるべきことに各々がエネルギーをかけられる関係を作っていけたらと思う。

Aチームの都内の合宿に限らず、地方や国外での合宿も参加させてもらえるようになり、少しずつサポートの頻度も増えつつある。また、2014年から新しい取り組みとして、日本各地でAチームを目指す選手を対象とした合宿に参加し、講習会なども行っている。そこでは個別のサポートには至っていないが、この活動により今後、継続したサポートが選手に提供できる可能性が出てきた。このように選手をサポートする環境は着実に改善されている。その分我々が背負う責任は重い。責務を全うできるよう今後も研鑽をつづけて、少しでも良いサポートができるよう努めたい。

SMT 指導士に求められる倫理とは

内田 若希 (九州大学大学院人間環境学研究院)

SMT 指導士資格認定委員会において倫理を担当していることから、今回このテーマでの執筆依頼を頂いた。正直なところ、非常に難しい問題であり、私自身が明確な答えを提示できるほど博学であると言いがたいが、みなさんが倫理について考える入り口になることを願って、執筆させていただくことにした。

さて、「倫理」という言葉を聞いて、みなさんはどのようなイメージをもつだろうか。私自身は、高校時代に、地理や歴史だけでなく倫理の授業があったことを思い出した。非常に哲学的な内容は

なにやらよく分からない難しいもので、睡眠学習にはもってこいの授業だったと記憶している(高校の先生、ごめんなさい...)。スポーツ心理学領域で研究し、SMT 指導士として実践活動を行う職にかなければ、あまり深く考えることもなく、一生を過ごしていたかもしれない。

さて、倫理とは、「社会生活を送る上での一般的な決まりごと」「社会の中で何らかの行為を行うときに、それが善いことか、正しいことかを判断する際の根拠」と捉えられている(図1)。

はじめに、SMT 指導士に求められる倫理を考え





る前に、スポーツ現場における倫理について考えてみたい。スポーツ現場では、ともすれば自分たちのルールが社会のルールである法律に優先するという錯誤が起きやすいようである。つまり、社会のルールと自分たちのルールといったダブル・スタンダード（二重規範）があって、その違いが認識されずに自分たちのルールが一般社会よりも上位にあると誤解した際に、大きな誤りが生じるのである（友添，2000）。スポーツ心理学に関連する研究領域において、「スポーツが人間形成に寄与」「スポーツを通じた社会的スキルの醸成」といったことが研究されているが（かくいう私もその一人）、勝利が切っても切り離せない競技スポーツ場面において、いまだに倫理にまつわる問題はあとを立たない。体罰、暴力、ドーピング、ハラスメント、金銭問題など、過去数十年にわたり論議され続けているにも関わらず、現代スポーツがさまざまな側面で多様化・巨大化していく中で、いまだ根本的な解決をみないように思う。友添（2000）は、スポーツが人間にとってふさわしい機能を発揮するような「見張り」が必要であり、スポーツについての正しい目的を見定めるための「スポーツ・アセスメント」が重要だと述べているが、われわれSMT指導士に求められる倫理とは、まさにこの視点にあるのではないだろうか。

そしてもうひとつ、SMT指導士があらためて自分自身を戒める視点も忘れてはならない。近年、

体育・スポーツの研究者が、現場の倫理にまつわる問題にどのように関わっていくことができるのか、学会でシンポジウムが企画されるなど頻りに論議されている。しかし、われわれSMT指導士自身も、ときとして加害者もしくは被害者になりうる。それはSMT指導士から現場の選手に対してであったり（たとえば、「自分は有名○○という選手をサポートしている」と話してまわる）、SMT指導士同士であったり（たとえば、一緒に活動している指導士間でのハラスメント）、多くの問題が考えられる。また、SMT指導士の中にも、自分が現役で競技スポーツに選手・指導者として打ち込んでいた時に、ダブル・スタンダードを経験した人は少なくないだろう。つまり、第三者としてだけでなく、当事者としての視点を併せもつことが肝要だと考える。そして、スポーツで何が許され、何が許されないのか、SMT指導士として何が許され、何が許されないのか、曖昧になりがちな境界線に鋭い視線を向け、真摯に活動していく姿勢とはなにか問い続けたい。

参考文献

公益社団法人 日本看護協会ウェブサイト.
<http://www.nurse.or.jp/>
 友添秀則・近藤良享（2000）スポーツ倫理を問う.
 大修館書店.

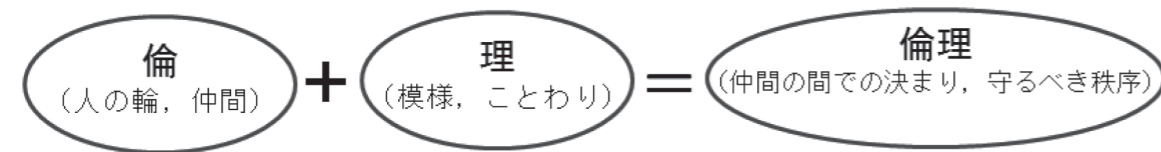


図1. 「倫理」の捉え方 (日本看護協会ウェブサイトより)



SMT 指導士バッジリニューアルのお知らせ

東山明子 (畿央大学)

このたび指導士バッジが新しく生まれ変わります。2000年に日本スポーツ心理学会認定スポーツメンタルトレーニング指導士制度が設立されてから15年経ちました。当初は指導士資格取得の証として、資格認定証書とカード型の認定証だけが授与されていました。それから10年、2010年にSMT指導士資格10周年を記念して作成されたのが、これまで私たちが胸に付けてきたオレンジ色の丸いバッジです。筑波大学で行われた10周年記念行事の時に、有資格者に配布されました。それ以来、新規資格取得者に、資格認定証とともに与えられ、「SMT指導士バッジ」としてスポーツ現場や学会や研修会などの場面で、多くの有資格者が胸にする姿が目撃されてきました。

当時の資格認定委員会でこの初代バッジ作成にご尽力くださったJISSの立谷先生に伺ったところ、バッジのデザインは日本スポーツ心理学会の基調となっているオレンジ色を用い、表面は英語にしてCertified Mental Training Consultant in Sportの文字と真ん中に省略した「CMTCS」の文字を配し、裏面には日本語で「日本スポーツ心理学会 スポーツメンタルトレーニング指導士認定記章」と入れることにこだわったそうです。当初150個作成されたバッジが、とうとうほとんど底をつき、残りが3個になりました。

SMT指導士資格制度設立から15年目、ちょうど2020年の東京オリンピック・パラリンピック

開催が決定された記念すべき時期でもあり、これからますます活動の場を広げ、社会に貢献できるSMT指導士でありたいとの思いから、この機会にバッジのデザインを刷新して新たに作成することになりました。

新しいバッジはSMT指導士資格の周知を図ることも意図して、一目見たら何のバッジかすぐわかるように、さりげなく人目を引くようなちょっと気になる色柄にしました。男性でも女性でもともに胸に付けて歩きたくなるデザインを心がけております。MentalのMと心を表すハートの形を重ね、しなやかな熱い心をイメージした赤い曲線の中に、Sport Mental Training Consultant in Sportを省略して「MTC Sport」と文字を配して見やすくしました。「MTC」は黒色で、「Sport」は日本スポーツ心理学会のシンボルカラーであるオレンジ色で、バッジの形状は誠実さや公正さを期して四角くし、背景の白色で清潔さや潔白さを表現しています。裏面には「日本スポーツ心理学会 スポーツメンタルトレーニング指導士」と入れました。

このバッジを胸にした指導士たちがスポーツをはじめとした場面で活躍する姿があちこちで見られることを期待したいと思います。みなさま、新しいバッジがお手元に届きましたら、SMT指導士有資格者としての自覚を今一度新たにして胸に付けていただきますようお願いいたします。



図2. SMT 指導士バッジの新デザイン





資格取得者の抱負

スポーツメンタルトレーニング指導士としての哲学の確立を目指して

筒井 香 (奈良女子大学大学院)

高校1年生の冬、所属していたサッカー部の顧問から「メンタル強化のリーダーを担当してみないか」と言われ、チームで唯一の女子選手として、プレイでチームに貢献することはできないと自覚していた私は、「チームに貢献したい」という想いから迷わず「はい」と返事をしました。そこからスポーツ心理学、メンタルトレーニングと名の付いた本を読みあさり、さらに高校球児にメンタルトレーニングを指導されていた先生から、幸運にもマンツーマンの指導を受けながら、チームが目標設定やリラクゼーションを行う際のリーダーとしての役割を、高校3年生の引退まで続けました。大学で心理学をもっと学びたいと進路選択を行ってから10年、スポーツメンタルトレーニング指導士の資格を取得することができました。その間、大学や大学院で心理学やスポーツ心理学といった基礎知識を学び、また、指導者講習会や事例検討会に参加することで、専門的な知識や技法の習得に努めました。本当に多くの先生方から温かいご指導をいただき、また、同じ指導士を目指す仲間と出会えたことは、大きな財産になったと確信しています。

これまで選手と関わって感じたこと、それは選手も一人の人間であるということです。だからこそ、一人一人個性があり、同じやり方では通用しない場面が多々ありました。テキストで基礎知識を学ぶことはとても重要ですが、現場へ出て多くの選手と出会い、選手の気持ちや選手の個性を、五感を通じて学ぶこともとても重要であると感じ

ています。「テキスト通りにはいかない」と痛感したとき、「どうしたらよいか」という自問自答が始まり、自身の成長へと繋がると思います。また、一人の人間であるからこそ、普段の生活での心理状態が競技場面に表れることも多々あると実感しています。私は選手と関わる時「競技で学んだことは人生に、人生で学んだことは競技に活かす合う」というメッセージを伝えています。スポーツメンタルトレーニング指導士として、最終的に選手の競技力向上をサポートするために、選手が普段の生活も含め、人生を豊かに生きられるように、人間的成長も視野に入れたサポートを心がけて選手と関わっていきたくと思っています。

資格取得をスタートラインとして、今後も自身が成長するための時間を惜しまず、これまで以上に講習会等への積極的な参加を行っていく所存です。人間的成長も視野に入れたサポートという視点を大切にするために、選手に「答え」ではなく「気づき」を与えられるスポーツメンタルトレーニング指導士を目指したいと考えています。そのためには選手に対し、多様なアプローチを通じて一貫したメッセージを伝えていく必要が考えられ、それを成立させるためには、自身の軸となる哲学なるものが存在する必要があるでしょう。将来、スポーツメンタルトレーニング指導士としての自身の哲学を確立できるように、「チームに貢献したい」という高校生のころの初心を胸に刻み、選手と共に歩んでいきたいと思っています。



資格取得者の抱負

学生 SMT チームの経験を活かして

門岡 晋 (金沢星稜大学、大阪体育大学大学院)

私は大阪体育大学 SMT チームのメンバーとして、修士1年の時から4年間 SMT による心理サポートを行ってきました。大阪体育大学 SMT チームは、スーパーバイザー (SMT 上級指導士資格保有者) 2名を顧問に置き、学生リーダー (大学院生) を中心にして約10名の大学院生・学部生が活動する学生主体のチームです。まだまだ発展途上のチームではありますが、時に顧問の先生方に支えられながら学生自身で一步一步前進してきました。

大阪体育大学 SMT チームのサポート形態の特色として、「1競技団体に対して、複数名 (2~4) による心理サポート」が挙げられます。チームでサポートを進めていくうえでは、当然の如く各々が望ましいと考えるサポートプログラムの流れや講習会の内容は完璧には一致しません。その為、主張が齟齬があり互いに苛々することもありましたし、私自身1人でサポートを進めた方が順調に進むのではないかと考えることも多々ありました。私が意気揚々と臨む講習会のリハーサルも、仲間から批判的な意見を浴びて嫌になることも正直ありました。しかし、チームで良かったと思えることも沢山ありました。特にサポート終了後の振り返りの時間は、決して1人だけでは経験できない大切な時間でした。「今日の講習会はわかりやすかったかな?」「なんで選手の反応あまり良くないんだろう。もっと上手くいく方法はないかな?」「あの監督が言っていたことって、どういうことなんだろう。」など、混沌とした問題と一緒にサポートしているメンバーとあれこれ言いながら向き合っていたように思います。おそらくこのような問題については、「絶対に正しい解」といったものはありません。故に、自分の殻だけに閉じこもり解を探すよりも、多様な価値観を互いに主張し合いな

がら議論し、「自分なりの解」「自分たちなりの解」を探していく方がより良い解に繋がるはずで。実際に、自分が「絶対にこれだ!」と思えたことでも、他人の主張を基にもう一度見つめるともっと良いアイデアが浮かんだりすることは多々ありました。これまでのサポートを振り返ると、帰りの電車の中で、夜な夜な大学院の自習室で、そして居酒屋でお酒を交わしながらお互いに意見を出し合い議論を重ねてきました。そうした時間の中で、「自分 (たち) なりの解」を探していたように思います。スーパーバイザーから頂く解も勿論大切ではありますが、何かに行き詰った時、迷った時、最終的な拠り所となるのが、「自分 (たち) なりの解」だと思います。未熟な学生スタッフではありますが、議論の末に「これだ!」という創造に行き着いた時、先生に負けず劣らず学生達もできるのだという自信に繋がっていたように思います (ところが、またその気持ちは何等かの要因によってへし折られるわけですが。結局はその繰り返しなのかなと思っています)。学生が1人でなく、チームとしてサポートを進めていく面白さや強みはその創造力の可能性にあると私は思っています。この4年間で私は、チームでやっていくことの難しさも経験しましたが、それ以上にチームやっていくことの素晴らしさを経験することができました。

多くの先生方のご指導や周囲の先輩、後輩に支えられながら無事に SMT 指導士の資格を取得することができました。皆様にはこの場を借りて、御礼申し上げます。次は、私が教員として学生チームをつくり、学生自身の「解」により添いながら、自分自身も SMT 指導士として成長していきたいと思っています。「自分なりの解」を求めて。



事務局からのお知らせ

(1) 有資格者数：平成26年4月現在で130名。名誉指導士6名。上級指導士48名，指導士76名。

(2) 平成26年度事業計画

本年度の資格認定委員会に関わる事業は表1のように計画されています。

表1 平成26年度 資格認定委員会事業計画

	事務局	資格認定委員会
平成26年 4月	申請書類の受付(4月1日～6月30日) 名簿変更の修正・追加	
5月		
6月	申請書類の受付締め切り(6月30日) 資格認定委員会開催案内	
7月	申請書類のチェック	第1回認定委員会：申請書類審査，研修会・講習会の計画
8月	書類審査結果の通知	第1回指導士研修会 8月7日(木) 於：国立オリンピック記念青少年総合センター
9月		
10月		
11月	資格更新手続き(11月～12月) スーパービジョン案内	MTフォーラム指導士会全国研修会の共催 第2回指導士研修会，資格取得講習会 12月6日(土)～7日(日) 於：大阪体育大学
12月		
平成27年 1月	資格更新・移行書類のチェック 認定委員会開催案内	
2月	スーパーヴァイザーへの謝金送金	
3月	合格の通知，資格認定者の名簿作成， 認定カード，認定証の作成(更新者も含む)及び 郵送	第2回認定委員会：申請者の新規合否判定，更新・ 移行の合否判定

(3) 平成26年度スポーツメンタルトレーニング指導士研修会，及び資格取得講習会のプログラム

①第1回指導士研修会

日時：平成26年8月7日(木) 9:00～13:00 (受付：8:30～)

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加費：a. 資格取得者：3,000円 b. 一般学会員：5,000円 c. 大学院生：4,000円

参加定員：100名

研修内容：

9:00～9:05 挨拶：資格認定委員長

9:05～10:45 研修1

・講演「イギリスプレミアリーグでの個別スポーツカウンセリング」

講師：Dr. Mark Stephen Nesti (リバプールジョンモア大学)

司会：上向 貫志 (武蔵大学)

11:00～13:00 研修2

・Dr. Nestiと中込四郎日本スポーツ心理学会会長(筑波大学)による対談

13:00～ 修了式及び受講証明書配布(研修会アンケートと引換)

②第2回指導士研修会

日時：平成26年12月6日(土) 13:00～17:45・7日(日) 9:00～11:30

場所：大阪体育大学 熊取キャンパス

参加費：a. 資格取得者：3,000円 b. 一般学会員：5,000円 c. 大学院生：4,000円

参加定員：100名

研修内容：

12月6日(土)

13:00～13:15 挨拶：大阪体育大学学長 岩上安孝(前国立スポーツ科学センター長)

13:15～14:30 基調講演 「新しい時代にふさわしいコーチング

－2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて－」

演者：森岡裕策(文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ振興課長)

14:45～16:45 シンポジウム 「新しい時代にふさわしい心理サポートを考える」

シンポジスト：久木留毅(専修大学教授) 日本オリンピック委員会情報戦略部門長

荒木雅信(大阪体育大学教授) ソチパラリンピック日本選手団団長

森岡裕策(文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ振興課長)

司会：田中ウルヴェ京((株)ポリゴン代表取締役) ソウル五輪メダリスト

17:00～17:45 鼎談 「メンタルトレーニング指導士の未来地図」

演者：中込四郎(筑波大学教授) 日本スポーツ心理学会 会長

関矢寛史(広島大学教授) スポーツメンタルトレーニング指導士会会長

土屋裕陸(大阪体育大学教授) 日本スポーツ心理学会資格認定委員会委員長

12月7日(日) 2つの研修プログラムを同時に開催します

9:00～11:30 プログラムA 事例検討会(参加は資格取得者に限ります)

事例提供者：武田大輔(流通経済大学准教授)

指定討論者：鈴木 壯(岐阜大学教授) ・ 立谷泰久(国立スポーツ科学センター研究員)

司会：菅生貴之(大阪体育大学准教授)

9:00～11:30 プログラムB 交流分析に基づくアスリート理解と心理支援

講師：江花昭一(神奈川大学教授)・中澤 史(法政大学教授)

司会：坂入洋右(筑波大学教授)

※研修会終了後，日本スポーツ心理学会企画フォーラムが開催されます。

③指導士資格取得講習会

本年6月末までに資格認定委員会事務局に所定の申請書類を提出し，書類審査に合格した方のみが受講。

I. 10:50～11:40 スポーツメンタルトレーニング指導士の役割と倫理

(教本第1章，倫理綱領・倫理規則)

講師：土屋裕陸(大阪体育大学)

II. 11:50～12:40 メンタルトレーニングの展開と評価(教本第2,3章)

講師：菅生貴之(大阪体育大学)

- Ⅲ. 13:30～14:20 メンタルトレーニング技法(教本第4,5章)
講師: 兄井 彰 (福岡教育大学)
- Ⅳ. 14:30～15:20 メンタルトレーニングの実践例と実践研究の方法(教本第6章)
講師: 水落文夫 (日本大学)
- Ⅴ. 15:30～16:20 資格取得者の資質向上(国内外の関連学会・研修会等の紹介)
講師: 東山明子 (畿央大学)

(4) 資格更新・移行: 資格の有効期限が平成27年3月31日までの方、更新を1年間猶予された方は更新・移行手続き期間は本年11月～12月です。個々に連絡はしておりませんので有効期限を必ず確認してください。なお、資格更新・移行の審査料は不要です。手引き、規約等の文書、必要書類等はHPに掲載されています。また、HPの「資格・更新」に必要書類の電子ファイルがありますので、ダウンロードしてお使いください。

(5) その他
・住所を変更された方は早めに資格認定委員会事務局にご連絡下さい。
・資格更新・移行、資格取得の申請には必要な研修ポイントが定められており、申請の際にはその研修を証明する証明書や領収書等のコピーを添付しなければなりません。研修会・学会等に参加されたときには参加を証明する研修(講習)受講証明書、領収書等を受け取り、保管しておいてください。

25年度会計報告

平成25年度スポーツメンタルトレーニング指導士資格認定委員会収支決算

一般会計

収入	
1. 新規資格認定審査料等 (7名)	140,000
2. 新規登録料 (30,000×7名)	210,000
3. 更新登録料 (30,000×12名、10,000×6名)	420,000
4. 指導士研修会(日本体育大学)11月1日	359,000
5. スポーツメンタルトレーニング教本印税	273,986
6. 利子	229
収入小計	1,403,215
前年度繰越金	967,236
収入合計	2,370,451

支出	
1. 資格認定委員会 旅費及び会議費	239,501
2. 指導士研修会(11/1:東京)講師謝金、旅費、事務経費等	167,375
3. 資格取得講習会(11/1:東京)講師謝金、テキスト代	112,936
4. スーパービジョン 5名分(各5,000)+振込手数料	36,470
5. メンタルトレーニングフォーラム 講師謝金	100,100
6. ニュースレター 印刷代ほか	116,592
7. 認定カード作成、認定証作成(18枚)+送料	77,152
8. 事務局経費	200,472
(支出小計)	(1,050,598)
9. 記念事業準備金	300,000
10. 次年度繰越金	1,019,853
支出合計	2,370,451



特別会計: 記念事業準備金

前年度残高	2,300,000
24年度一般会計から	300,000
残高	2,600,000

<会計監査報告>

スポーツ心理学会資格認定委員会の会計監査を行い、領収書等のすべての会計書類を照合した結果、決算報告書通り、相違なきことを認めます。

平成26年4月28日

監査 山本 裕 = 
監査 岸 順治 



編集後記

2014年度の「ニュースレター」第12号をお届けします。今年度は資格認定委員会の事務局が移転し、さらに委員の顔触れも大幅に入れ替わりました。そうした混沌とした状況の中、ニュースレターの発行が大幅に遅れてしまい申し訳ございませんでした。まずはお詫び申し上げます。

2016年のリオデジャネイロ、2018年の平昌、そして2020年の東京と続いていくオリンピック。私たちの資格取得者が、こうした大きな舞台で仕事をしていくために、いよいよ具体的な行動やプランを持たねばならない状況となってきました。今回はそうしたことから、競技団体における心理サポートを具体的に実践している日本大学の平木貴子先生から、ご寄稿いただきました。

また、本年度も昨年度に引き続き多数の学会、シンポジウム等で暴力やハラスメントの防止に関する話題が取り上げられました。こうしたことがもしも自分の関わっている団体で行われていた場合に、私たち指導士がどのように行動するべきなのか、について各々が明確に行動規範を持っておく必要があります。そうした観点から、九州大学の内田若希先生より玉稿を頂いております。

さらに、資格認定10周年の折に作成した、「指導士バッジ」につきまして、その後の新規資格取得者も増えてきていることもあり、デザインを一新して作成することを予定しております。本号ではご腐心を頂いた畿央大学の東山明子先生からご報告を頂きました。

新規資格取得者の筒井香先生及び門岡晋先生からは今後の抱負を綴っていただいております。

なお、資格関連の事務的なご報告もさせていただきます。ぜひともご覧ください。

最後になりましたが、今後も皆様からのご意見をお伺いしながら、指導士としての活動を共有しあえるような情報提供の場を提供していくべく、「ニュースレター」を発刊してまいりたいと存じます。よろしくお願いたします。

広報担当：菅 生 貴 之 (大阪体育大学)
東 山 明 子 (畿央大学)
蓑 内 豊 (北星学園大学)

日本スポーツ心理学会認定
スポーツメンタルトレーニング指導士

ニュースレター 第12号
2015年(平成27年)3月28日発行

編集・発行
日本スポーツ心理学会
スポーツメンタルトレーニング指導士資格認定委員会

事務局
〒590-0496 大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1
大阪体育大学 土屋裕睦研究室

FAX: 072-453-8818(土屋宛) E-mail: jssp_mtcs@yahoo.co.jp

郵便振替口座 口座番号 00800-8-120103
口座名称 日本スポーツ心理学会資格認定委員会

